型のものには認められない。また、経名の右側に、大般若経であれば十六善神王、仁王経であれば五大力菩薩と書き、左側に年月日を書くという共通性がある。このことから、(6)も主文は読めないが大般若経転読札であることがわかる。同様に(7)は仁王経であろう。(11)〜(15)は墨痕を明瞭には読み取れないが、頭部を圭頭状に加工している点と、「奉」ないし梵字が読み取れることから、同様の札であると考えられる。(16)は上部が欠損し、墨痕も明瞭でないため不明である。(17)は呪符木簡で、裏面にも墨書が認められる。

(18)(19)はSE〇一の方形井側の隣り合う縦板で、掘形側の面の部材下端から約七五cmの並列する位置に、足利様の花押が書かれている。一見すると両者は異なるが、構成要素が共通することから、近しい間柄の人物のものである可能性が高い。部材には転用の痕跡が認められないことから、井戸構築時に書かれたものと推測される。

　木簡の釈読にあたっては、大阪府文化財センターの水野正好氏、姫路市教育委員会文化課の宇那木隆司氏のご教示を得た。また、花押については、大手前大学の小林基伸氏、依藤保氏、奈良文化財研究所の山本崇氏のご教示を得た。

（中川　猛）

木簡研究　第二七号

巻頭言—書くことと削ること—　籾山　明

二〇〇四年出土の木簡
概要　平城宮跡　平城京跡左京三条二坊一坪　平城京跡左京三条五坊十坪　東大寺旧境内　西大寺旧境内　旧大乗院庭園　下永東方遺跡　藤原宮跡　藤原京跡右京十一条四坊　四条遺跡　石神遺跡　飛鳥京跡　平安京跡右京六条三坊六町　宇治市街遺跡　内里八丁遺跡　禁野本町遺跡　嶋上郡衙跡　北花田口遺跡　川除・藤ノ木遺跡　板井寺ヶ谷遺跡　稲富遺跡　嫁ヶ渕遺跡　苅安賀遺跡　下津北山遺跡　清洲城下町遺跡　大蒲村東Ⅰ遺跡　土橋遺跡　上窪遺跡　北条時房・顕時邸跡　下馬周辺遺跡（鎌倉女学院地点）　永福寺跡　水戸藩徳川家小石川屋敷跡・駿河小島藩松平家屋敷跡・播磨安志藩小笠原家屋敷跡（春日町遺跡第Ⅲ・Ⅳ地点）　水野原遺跡（新宿区No.一一〇遺跡）　天龍寺遺跡　葛西城址(1)　葛西城址(2)　小針北遺跡　長須賀条里制遺跡　市原条里制遺跡（実信地区）　北下遺跡（一）　西根遺跡　関津遺跡　北萱遺跡　加茂遺跡　慈恩寺遺跡　鷺山蟬遺跡　松本城下町跡伊勢町　樺崎寺跡　泉廃寺跡（陸奥国行方郡衙）　若林城跡　市川橋遺跡　一本柳遺跡　柳之御所跡(1)　柳之御所跡(2)　花立Ⅱ遺跡　渋江遺跡　手蔵田一〇遺跡　鶴ヶ岡城跡　厨川谷地遺跡　東根小屋町遺跡　脇本城跡　高間（一）遺跡　本町一丁目遺跡　森本C遺跡　梅原胡摩堂遺跡　小出城跡　弓庄城跡　三角田遺跡　松葉遺跡　上田遺跡　南魚沼市余川地内試掘調査地点　築地館東遺跡　西川内北遺跡　中野清水遺跡　草戸千軒町遺跡　城仏土居屋敷跡　高松城跡（松平大膳家上屋敷跡）　徳島城下町遺跡（中徳島町一丁目地点）　常三島遺跡　新蔵遺跡　博多遺跡群　本堂遺跡

一九七七前出土の木簡（二七）
平城宮跡

釈文の訂正と追加（八）
堅田B遺跡（第二〇・二一・二二号）　徳島城下町跡（第二二号）

シンポジウム「中国簡牘研究の現状」の記録
荊州地区出土戦国楚簡　廣瀬薫雄
江陵張家山二四七号墓出土竹簡—とくに「二年律令」に関して—　冨谷　至
史料群としての長沙呉簡・試論　關尾史郎
「中国簡牘研究の現状」シンポジウム私見　籾山　明

新刊紹介　冨谷至著『木簡・竹簡の語る中国古代—書記の文化史』　渡辺晃宏

頒価　五〇〇〇円　送料六〇〇円